

令和2年度第1回京都市図書館協議会摘録

○日 時：令和2年10月2日（金）

10時00分～12時00分

○場 所：京都市生涯学習総合センター 3階第3研修室

○出席委員：[10名中10名出席]

石川 一郎 委員

岩崎 れい 委員

梶川 敏夫 委員

佐々木 繁 委員

鈴木 美和 委員

谷 武彦 委員

谷口 妃都美 委員

谷口 豊 委員

中島 醇子 委員

野村 愛子 委員（五十音順）

○欠席委員：0名

○傍聴者：0名

1 開会

(1) 新委員紹介

(2) 中央図書館長の挨拶

- ・ 10月1日の読売新聞の朝刊に、京都市図書館において、司書専用の肩書を導入したという記事が掲載された。この制度は、私自身の発案により、本年度から開始したものである。
- ・ 司書専用の肩書をつくるということに想いを持ったのは、記事の見出しにもあるとおり、「本のプロ」役割重要に」ということが主な理由である。
- ・ 図書館の司書は、専門家としての役割が非常に大きいというのが私の持論である。一方、学生の意見を聞くと、4年生大学の新卒の就職先としては、あまり人気がなく、また司書を目指しても、そもそも採用人数が少なく、敷居が高いということだった。
- ・ 給与面も含めて、司書の待遇がよくないことが全国的に言われている中、司書専用の呼称を設けることで、やりがいなども生まれ、活性化し、人気が出る部分もあるのではないかと考えている。
- ・ 本日は、そのような関係も含め、図書館に関する貴重な御意見をいただきたい。

2 報告事項

事務局から、資料に基づき、以下の項目について報告した。

(1) 京都市図書館の利用状況について

平成22年から令和元年度までのここ10年間の京都市図書館の主な統計数値を見ていくと、令和元年度は「蔵書冊数」「総貸出冊数」「児童書貸出数」「貸出人数」「入館者数」「個人登録者数」「予約冊数」「図書館間資料運搬冊数」という主要な8つの項

目の内、「蔵書冊数」「児童書貸出冊数」「総貸出人数」「予約冊数」「図書館間資料運搬冊数」の5つの項目で最高値を示した。

「総貸出冊数」は、平成22年度をピークに減少傾向にあるが、全国の貸出冊数の推移と同じように推移しており、全国的な傾向と考えている。

「入館者数」についても平成22年度をピークとして、減少傾向が続いているが、人口も減っており、ある程度はやむを得ないと考えている。

自宅で、スマートフォンやパソコンから予約し、最寄りの館で資料を受け取られる方が増加しており、「予約冊数」「図書館間資料運搬冊数」の数値は、右肩上がりに増加している。両方とも令和元年度に最高値を示しており、今後もこの傾向は続くものと思われる。

「蔵書冊数」も増えているが、各図書館とも収容できる上限に達している状況にあり、更なる増加は難しいと考えている。

0歳から12歳の児童への貸出状況を示した「児童貸出冊数」は、「総貸出冊数」が減っているにも関わらず、平成27年度から増え続けている。現在、「第4次」である「京都市子ども読書活動推進計画」に基づき、ブックスタートの取組や読書ノートの配布など、地道に取組を継続してきた成果が出ていると考えている。

「個人登録者数」は、若干減少しているが、京都市の人口の3割弱の傾向が続いていると考えている。

(2) 京都市図書館の新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた対応経過について

昨年度末からの新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大に伴い、4月中旬から5月中旬の約1か月にわたる全館休館などを実施した経過等を報告する。

国から、2月26日に、「今後1～2週間が感染拡大防止に極めて重要な期間」との見解が示された。その段階では大規模なイベントの自粛の要請であったが、翌2月27日には、全国を対象とした学校の休校の要請も出され、京都市立学校についても3月5日からの休校の開始が決定した。

こうした状況を踏まえ、京都市図書館では、3月1日からお楽しみ会等のイベントを当面中止することとし、3月5日から、右京中央図書館と醍醐中央図書館にある映像視聴席など、館内に一定時間とどまることを要するサービスを休止。また、他の図書館でも長時間の滞在をご遠慮いただくようお願いすることとなった。

4月には子ども読書の日記念事業も多く予定していたので、終息に向かって欲しいとの思いであったが、全国的な感染拡大が進み、本市でも4月に入って毎日10名前後の感染者が判明するようになった。

4月7日には、東京都をはじめ7都市に緊急事態宣言が発令され、これを受けて京都府は不要不急の外出を自粛するよう府民に求めた。

こうした状況を踏まえ、4月10日以降の京都市立学校の休校の延長が決まり、その時点で京都市の文化施設のほとんどが休館することとなった。

ただ、図書館は、京都市としての判断もあり、市民生活に必要な施設として、全面休館はせずに、館内での閲覧などは休止しつつも、予約された資料の貸出などは継続していくこととした。

しかし、国が4月16日に緊急事態宣言の対象を全都道府県に拡大し、京都府が特定警戒都道府県に指定され、図書館も対象に含めた4月18日からの休業の要請が、京都府から4月17日に出されたことを受けて、京都市図書館も全館全面休館せざる

を得ないこととなった。

休業は5月7日までの予定であったが、5月4日に国の緊急事態宣言が延長され、これを受けて京都府の休業要請も延長された。こうした状況に対応するため、京都市図書館では5月5日から、送料は利用者負担であるが、予約で用意できている資料の希望者への郵送による貸出を開始した。

5月16日には来館いただいて予約資料を受け取れるようになったので、それまでの間であるが、郵送による貸出は240人の方の申込みがあり、978冊を貸し出した。

5月16日からの京都府の休業要請緩和を受け、来館による貸出は、すでに予約を受けて用意できている資料を、一時に来館が集中しないよう、事前に連絡を受けて時間を調整した上で、受け取っていただくようにし、休業要請の解除が予定されていた5月23日までの1週間で5,967人の方に16,571冊を貸し出した。

休業期間中は新規の予約の受付を止めさせていただいたが、休館直前までの予約で1万人分をこえる資料が用意できていたので、5月23日の再開館までに一定数の資料を貸し出したことで、再開館時の集中はある程度緩和できたと考えている。

5月23日に京都府の休業要請解除を受けて、館内の利用も含めて再開館したが、休館期間中に貸出がストップしている中で、多くの資料が返却されていたことから、各館で多くの資料が棚に収まりきらず、本来利用者に利用いただく閲覧テーブルやイスの上にも資料を置かざるを得ない状況であった。また、そうした資料の毎日の整理や、館内や資料の消毒作業を行う時間的な余裕も必要であるため、再開館の時点では閲覧席などの利用はしていただけないだけでなく、開館も午後5時までとさせていただいた。その後、6月1日からは、席数は利用者同士の距離をとっていただくため、半数程度に限定しているが、閲覧席も利用できるようにし、また6月15日からは、午後7時までではあるが夜間開館を再開するなど、必要な感染予防対策をとりながらサービスを拡大しているところである。

再開にあたって京都市の方でも補正予算が組まれ、当面の職員用マスク、消毒液、手指用消毒液の自動噴霧器、イベントの際などに使う非接触型体温計などの配分があった。また、国の新型コロナウイルス感染症対応臨時交付金を活用して、全図書館に書籍消毒機を置くための予算が5月の議会をついた。

大きさは幅約50センチ、高さとお行きが約60センチ。A4サイズまでの書籍なら3冊同時に入れることができ、送風により、書籍の間に挟まったほこりなどを除去するとともに、紫外線を60秒間あてて除菌する機能がある。使用は利用者自身で操作してもらおう。メーカーへの注文が多く、京都市図書館への設置は12月から1月にかけてとなる見込み。新型コロナウイルスに対する利用者の不安も少しは解消できると考えている。

3 報告事項に関する質疑応答

意見 国の緊急事態宣言延長を受けて、京都府が休業要請を延長されたことに伴い、利用者負担による、希望者への郵送による休館前までの予約資料の貸出を実施したという説明があったが、京都府立図書館が実施したような、新規に予約を受け付けてそれを郵送で貸し出すという判断はなかったのか。

回答 京都府立図書館と同様の方法も検討はしたが、既に予約資料をお待ちいただい

の方が沢山いらっしゃる中、それを後回しにして新たに予約を受け付けて郵送するのではなく、準備できている予約資料の受け渡しを優先していく方向で判断した。

4 協議事項

事務局から協議事項に関連した図書館の現状等を説明した上で協議を実施した。

(1) 「新しい生活スタイル」を踏まえた図書館のあり方・図書館に望むこと

ア 事務局からの説明

(ア) 京都市図書館におけるサービス再開状況（令和2年10月1日現在）

a 開館時間

午前9時30分の開館時刻及び土曜・日曜・祝日の開館時間については、再開直後から通常どおりとしている。

ただ、平日の閉館時刻については、各館での感染予防対策の作業時間が確保できるよう、再開直後は、午後5時で閉館としていたが、6月15日からは午後7時までとしている。

午後7時閉館となったことにより、月・木曜日のみ夜間開館を実施していた地域館7館及びコミュニティプラザ深草図書館の開館時間は通常通りに戻ったが、中央館4館とこどもみらい館子育て図書館は通常午後8時30分閉館のところ1時間半の短縮、残りの地域館7館は通常午後7時30分閉館のところ30分短縮となっている。

b 図書館サービス

5月23日の開館直後は、館内での閲覧はお断りし、貸出・返却、予約の受付、利用者登録などに限定しての再開となった。レファレンスサービスも電話でのみとさせていただいた。

6月1日からは、館内での閲覧やレファレンスサービスも再開したが、座席数は、利用者同士の距離を確保するため、使用してもらう座席数は一部のみ、通常の半数以下とした。また、混雑時の滞在は、1時間以内にとどめていただくようお願いをしている。

蔵書検索機OPACやコピー機、オンラインデータベースの利用も再開しているが、長時間の利用が前提となる機器を使ったサービス、CDやDVDの館内視聴機、インターネット席等の利用は現在も休止している。

イベントについては、大人向けの講座から、定員を半分に減らし、事前予約にするなど対策をとりながら再開。徐々に子ども向けのイベントも参加人数を限定しながら再開していく予定。

c その他

再開にあたって、館内消毒や定期的な換気、カウンターでの飛沫防止シートの設置など感染予防対策をとっている。利用者にもマスクの着用や手洗い・消毒液の利用などをお願いしている。

(イ) 令和2年度 再開後の利用状況

「貸出冊数」「児童貸出冊数」について、昨年度の6～8月の状況と比較すると、6月は、それぞれ昨年度の80%強の貸出であったが、8月はほぼ昨年度並みの貸出となっている。7月については、「貸出冊数」の90.7%という数値と比較して、「児童貸出冊数」が84.1%と少ないが、本年度、学校が夏休みに入らず

授業があったことによるものと考えている。

「入館者数」については、17時までの入館者が6月の75.8%から8月は82.8%になっている。17時以降の入館者は、6月で31.9%、8月で65.1%となっている。夜間の利用は、6月は夜間開館自体を再開したのが15日以降であり、その後も開館時間を短縮しているの、そのことの影響が大きい、17時までの入館者も8割程度にとどまっていることは、貸出が昨年並みであることを考えると、貸出以外の目的で図書館を利用しておられた方が、まだ再開できていないサービスもあり、滞在時間もできるだけ短くお願いしているもとで、利用していただきにくい状況が影響していると考えている。

全体的な印象として、親子連れが減っており、親が子の分もまとめて借りに来るケースが目立っている。また従来、インターネットでの予約が増加する傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、その傾向にさらに拍車がかかっている。来館して自身で資料を探しておられたのが、事前に予約をして、その本だけを取りに来る利用の仕方に変化している印象がある。

「貸出冊数」の状況を年代別で見ると、8月の6歳以下の貸出は、昨年度を上回る状況であった。

小学生・中学生の年齢層への貸出は、7月は、大きく落ち込み、8月は、昨年度を少し下回っている。ただ中学生の年齢層は6月の貸出が昨年度より上回っており、この時期、部活動が再開していなかった影響が出ていると推測している。

高校生や大学生の年齢層の貸出は、昨年度の同時期と比較し、大きく上回っている。こうした世代の利用は、元々が少ないので、全体に大きな影響が現れることはないが、特に大学生の年齢層の貸出が大きく上回っている。これは大学がまだオンライン講義が中心で大学図書館の利用ができなかったことで、普段、市図書館を使っていなかった層が利用しているのではないかと考えている。SNSでも大学生の「市図書館にもこんな本がおいてある」とか「他の図書館からも取寄せられて便利」といった書込みが見られた。こうした方が今後も京都市図書館を使っただけのよう考えていきたい。

その上の世代の方はおおむね8月は昨年度並みになっているが、61才から70才の方の利用が昨年度から1割以上落ち込んでいる状況にある。この要因については不明であるが、今後の状況も意識して見ていきたいと考えている。

(ウ) 中央図書館におけるコロナ対策について

a 開館に向けた準備

- ① 各カウンターにビニールシートを設置。図書館カードを受渡しするためのトレイを準備。
- ② 出入口付近に消毒用アルコールを設置。マスク着用を促す看板も設置。
- ③ マスクを忘れた利用者のために手作りマスクを用意。
- ④ 間隔をあけて並んでもらえるよう、入口前の足元に印を設置。

b 消毒

- ① 接触感染防止のため、利用者自身で本の消毒ができるよう、消毒液とふき取り用の紙を設置。
- ② 定期的に、換気を行うとともに、ドアノブ、手すり、OPACのキーボードなど、人の手が触れる場所の消毒を実施。

③ 本を持ち運ぶためのカゴを、消毒済みと使用済みのものに分けて置くようにした。

④ 返却された本を書架に戻す前に職員が消毒。

c 密の回避策

① 閲覧席の数を減らした。新聞・雑誌閲覧コーナーでは、長椅子を撤去し、間隔をあけて丸椅子を設置。参考図書室の閲覧席では、通常の半分の席数に。

② カウンター付近の密を回避するため、間隔をあけて並んでもらえるようカウンター前に足型を貼るとともに、利用者の流れを示す矢印を設置し、流れがスムーズになるようにした。

③ 児童図書室の幼児コーナーでは、柵を設け、グループごとに間隔をあけて過ごしてもらえるよう工夫している。

d 行事の実施

① 8月1日(土)ブックトーク(約15分×2回)

間隔をあけて椅子を配置。参加者に体温の計測と手指の消毒を依頼。

窓を開け、演者はマスクとフェイスガードを装着。

子どもが大きな声を出さずに済むよう、手札をあげてクイズに答えてもらうよう工夫。

② 8月28日(金)夏の大人のお楽しみ会(怖い話の朗読会 時間:30分)

昨年度の半分の定員(15名)の事前申込制とした。参加者の体温を計測。

参加者の席は間隔をあけ、演台には飛沫防止のためのアクリル板を設置。

朗読にはマイクを使用。

③ 8月29日(土)子どもの本の福袋

事前に入場券を配布。すぐに本を選んでもらえるよう、赤ちゃん用・ちびっこ用・小学校低学年用の3種類の福袋を準備。

④ 9月25日(金)京都市図書館で初のオンライン行事に挑戦(約30分)

従来参加者が集まり実施している「あたまいきいき音読教室」を、ZOOMを使ってオンラインで実施。

(エ) まとめ

従来図書館では、集まって声を出す前提で成り立っていた行事が多いが、現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、マスクで顔が見えず、コミュニケーションを取りにくい中で、行事を実施している。今後市民に、読書への興味をもってもらいやすい機会にするために、どのように行事を実施していけばよいか御意見をいただきたい。

また、図書館はこれまで、家庭でも、職場や学校でもない、第三の場所として、本を読んだり、調べものをしたり、くつろいだりできる場所として、空間を活用いただいていたが、現在のコロナ禍の状況の中で、図書館の機能をどういう風にしていくのがよいか御意見をいただければと思う。

学校の支援や連携する事業もなかなか実施しにくい状況が続いている。これまで、出前事業専用車両「青い鳥号」で学校へ行き、子どもに本を貸し出したり、教室で本を読んだりしていたが、そういったこともなかなかできない。実現するにはどういう工夫をすべきか御意見をいただきたい。

財政状況も大変厳しい中、コロナ禍の中でも、実施していかなければならないサービスについて、あるいは、ここまで図書館がする必要はないのではないかと、いった、サービスに関する本質的な御意見もいただければと思う。

イ 協議内容

意見 司書の呼称の制度の導入はよいと思う。学校の分野でも、役所の建築の分野でも、現場で業績を残した、教員や技術職の人が局長級になっている事例があるように、現場をよく知る方が、統制する方が、モチベーションも上がるし、よいと思う。

意見 図書館は、蔵書が命であるが、予算も限られているし、書庫にも限界があると思う。

ネットワークでつなぎ、どこにどんな本が保管されているか、検索できるようにできれば、京都市のどこかに1冊あればよいということになる。その本の利用度も高まる。ネットの時代には京都市全体での蔵書構築が重要になってくると思うが、各図書館のコレクションの選書をどのようにしているのか、他館との調整はどうしているのか知りたい。

回答 図書館の選書は新規に購入する場合と市民の方から寄贈いただく場合があるが、いずれも司書が選書に関わっている。

高齢者が多い、教育に熱心など、地域ごとに特色があり、現場を知っている司書が、その特性に配慮しながら、限られた予算の中で、自館にふさわしい蔵書について考え、選書している。最終決定は各館の館長が行っている。

右京中央図書館は、京都市図書館のレファレンスの中心を担う館として、京都大百科事典をうたっており、各館と調整しながら、京都に関する郷土資料をそろえるようにしている。

意見 その地域の住民の方が関心のある内容が、その図書館のコレクションになっていくのが一番自然だと思う。右京中央図書館の歴史関係の蔵書は非常に充実している。

意見 子ども文庫の活動の中で、図書館にお願いしたいことがある。

コロナ禍で、学校が臨時休校になっていた時期に、できるだけ多くの団体貸出を受けたいと考えていた。ところが、京都市図書館が4月10日から急遽館内での閲覧を休止することとなり、図書館から館内で本を選んでもらえなくなるということで、急いで見に行ったため、30冊しか借りられなかった。そのまま図書館も4月18日から臨時休館されたので、子ども達に貸し出す本の無さに困っていた。

学校がないと本を読むことぐらいしかできない子もいた。子ども向けの団体貸出に関して、一般の取扱とは違うような、利用の仕方をさせてもらえればと思う。

意見 秋の読書週間に実施する講演会の企画に携わったが、京都市図書館との打ち合わせを始めた7月末頃には、この先どうなることか分からない状況であったので、オンラインでの講演会ができたらとの意向も伝えたが、今年度は難しいという回答であった。

今後コロナ禍でイベントができなくなった場合、何もなくなってしまふより、オンラインであっても、講演会が見られる方がよいと思う。

J B B YやJ P I Cの講習も現在オンラインが多いが、従来東京に行かないといけなかった講習が自宅から受講できたり、開催時刻間際までインターネットで申込できたりと多くのメリットを感じており、京都市図書館でもイベントのオンライン化も考えてもらえたらと思う。

意見 中学校は、休校期間での学習の遅れを非常に懸念しており、学校再開からは、遅れ

を取り戻すため、授業がどうしても座学になってしまい、図書館を利用した学習は、実施しづらい状況である。

対策の取組も、どこかに負担をかけると、どこかにしわ寄せがきて長く続けるのは難しいかと思うが、子ども達が本を求めていることには変わらないと思う。

オンラインの話も出たが、このコロナ禍の中で、生活スタイルを見直しながら、やりやすい方向を調べ、予防の対策を取りながら、今できることをするしかないと思う。

学校では、生徒全員がタブレットを持って、ICTを活用したオンラインの授業も実施していく。今後オンラインで講演会もできるだろうし、本に関しても、欲しい本を検索して探し出せるようなことのノウハウの部分も教えていけたらと思っている。

図書館の利用も現在厳しい状況だが、焦らず、慌てず取り組んでいくことが大切である。

意見 新型コロナウイルスへの対応については、何をどこまでしていれば正解なのか分からない中、学校も公共図書館と同様、検討を行ってきた。学校に来るのは、学区の子どもに限定されるが、公共図書館はそうではない。不特定多数の利用者があることを想定し、時間を掛けて様々な対策を打たれたのであろうと、頭の下がる思いがした。

学校の図書館を開けてもよいのか。誰かが借りた本が返ってきて、それを次の子どもに貸出してよいのかどうか、論議した。学校は、はじまったら集団となることは間違いない。そのような中、この本が、次の子へ行くことを認めなかったら、何もできない。様々な制約について、社会全体にある程度納得がある中、ずっと言われているマスクの着用、消毒、手洗い、密を避けるということを継続しながら、できることを懸命にやっていくしかない。

意見 特色ある図書館をつくり、オンラインの仕組みを入れ、気軽に自分の知りたいことにアクセスできることになれば、1館1館がすべての本をそろえなくても、よいのだという意見は、なるほどと思った。

オンラインの講習会でわざわざ東京へ行かなくてもいいという話もあったが、現場へ行って、会って、話してでしかできなかったことが、遠方にいる人とリモートでやり取りして、ある程度のことはできるようになってきている。これは、コロナ禍が過ぎたとしても、働き方の改革にもつながっていく部分もあり、残していったら、有効に活用していくべきだと思う。

意見 京都府の資料を扱う施設へ行ったが、コロナ禍の中で、感染症拡大防止策をとっておられ、椅子の数が半分になっていて、座るところがないという状況も見られた。せっかくだら行っただけなのに座るところがない状況であれば、利用者の足が遠のいてしまう心配がある。

意見 大学での講義を受け持っていて感じるのは、人間関係をつくっていくことを考えると、対面がよいということである。現在、パソコンが発達しており、技術革新の流れに乗っていく必要も感じる一方、「話さない」「静かにせよ」「距離を保て」となると、何のための人間生活なのか分からない。コロナ禍の中で、リモートと対面では、授業のレベルが違ってくることは、自分でも実際に体験しており、うまい方策はないかと感じている。

意見 リモートで行う会議より、皆があつまる方が、議論にも拍車がかかる。なかなかコロナ禍の中で難しいとは思いますが、集まって取り組んでいただいた方がよいと思う。

ただ、この世の中、リモートが主流になってきている。大学生が図書館のよさにつ

いて、SNSで発信している説明もあったが、その辺りもうまく絡めて取組を進めていけたら、多くの人に図書館のよさも伝わっていくと思う。

意見 学校での図書館のボランティアの活動を、PTAとして行っている学校もあれば、学校運営協議会の位置づけで実施しているところもあるが、活動のあり方が分からないこともあるため、図書館の方で取組の仕方をぜひ積極的にオープンにしてもらいたい。

意見 オンラインよりも現場の先生に質問する方がよく分かるし、分かっていないことに気づくのは、リアルな世界の方だと思う。学びのきっかけとしては、オンラインでは難しいと思っている。本を読むきっかけや学びを深めるために、現場で、図書館の司書に背中を押してもらいたい。

意見 蔵書検索をするといろいろな蔵書データがある。最近の本については、詳しい内容の説明があるものの、古い本はまったく記載の無いものがある。ネットでアクセスした時に、古い本についても、本の内容が分かるようになればありがたい。

意見 図書館は、単なる貸本屋でなく、知る自由を保障してくれる空間と思っている。

図書館は実は、こんな活動しているのだということをもっといろんな人に知ってもらう工夫をした方がよいと思う。説明のあった新型コロナウイルスへの対策の取組についても、公共図書館も迷いながら活動を模索しているということをも、迷っているそのプロセスも含めて発信し、アピールしていった方がよい。

新型コロナウイルスへの対策の作業時間の確保のため、平日を7時閉館にしていることは、今回の説明で分かったが、疑問を持っている人も少なくないと思う。裏側も出していった方がよい。

意見 公共図書館が、コロナ禍で大変であることはよくわかるし、それぞれ館が工夫しているのを感じるし、感謝している。昨今様々な業界で、オンライン化が進んでいるが、高齢者はやれないのではなく、やらない方が多数いらっしゃると思う。京都市図書館でいろいろなオンラインの取組をやっていただければ、積極的に参加しようと思われる方もいらっしゃると思うので、進めていってほしい。

意見 新型コロナウイルス感染症の対策かと思うが、図書館資料を入れるカゴを置いていない図書館がある。体の不自由な方やお年寄りなど、本を抱えながら本を選んでいるのは大変なので、置く方がよいと思う。

意見 リモートについて、委員から様々な意見があった。メリット・デメリットどちらの考えもあると思うが、会議や授業という、コミュニケーションを必要とする部分では、確かにデメリットが多いと思う。

ただ、講演会だと、大きな会場で、講師の方ひとりが聴衆に話しかける形だと思う。

オンラインによる作家の講座を受講したことがあるが、自宅や作業場など、普段見ることのできない場所からされることもある。また、講座の流れの中で、自宅の貴重な資料をみせてもらえることもある。会場では感じられないと思われることも感じれるメリットもあると思う。

意見 オンラインできることが増えているという委員からの意見が多かったと思う。

今は仕方なく、オンラインでしていることもあるが、今後、新型コロナウイルスの状況が落ち着いてくれば、この部分はオンライン。この部分は現場。そのような形で、メリットとデメリットを踏まえ、自然に分かれていくと思う。試行錯誤中で図書館はというふう利用者のニーズに応じていくのかということが課題になると思う。

また、今ある技術も将来的には変わり、現在のオンラインの限界が突破されていくこともあると思う。

意見 図書館における選書についての意見が出たが、図書館がどのように専門性をもつかが問われていると思う。大学図書館は、研究書をたくさん置くこと、一方、学校図書館は、学校のカリキュラムに合わせた資料や子ども達の読書習慣の形成を目的とした資料を置くことなど、それぞれの目的が明確であるが、公共図書館というのは、すべての利用者を対象にしないといけないので非常に難しい。

1970年代から公共図書館は、まず貸出をメインにし、利用者のニーズを重視し、予約やリクエストを中心にやってきたが、予算に限界がある中で、蔵書の構築としてはどうなのかという疑問も出てきたと思う。

東京都の文京区は古い時代から、この館は教育に強い、この館は歴史に強いなど、分担収集が進んでいたが、同区は、小学生でも簡単に行ける範囲に3館も4館もあるという事情もある。京都市の場合は、1館1館が遠すぎて、子どもや高齢者が簡単にいけないので、それぞれの館である程度そろえざるをえない状況があると思う。

意見 予約資料を最寄りの館に取り寄せできるようになっているが、現物があれば、その場で本にざっと目をとおし、ある程度本の中身が分かるが、インターネット上だと、書名などの書誌情報しか分からない。新しい本だとアマゾンに掲載されているような情報は分かるものの、古い本については課題だと思う。

意見 会議や授業がリモートだと質が変わるのは明らかで、顔見知りのグループだとまだ進むが、お互いが知らない同士だと全然進まない。大学図書館や学校図書館は、利用者が固定しているので、ある程度できると思われるが、公共図書館は難しいと思う。

オンラインでの行事は、体が不自由で家から出られない人にとってチャンスになると思う。

意見 いろいろ工夫をして図書館行事を実施している事例の紹介があったが、子ども達がしゃべったり、盛り上ったりできない図書館行事たのしくないと思う。同じような形で進めるのがいいのか、模索してもよいと思う。

意見 「座席が少なく、その場の資料が少なく、行っても仕方ない」というのは、以前からよくある話だと思う。図書館の一番の目的は、知る自由の保障であり、資料あつての図書館だと思うが、そのために何ができるかということが重要だと思う。

意見 新型コロナウイルスへの対応で、各館、専門の仕事以外のことに追われている時期かと思うが、何を今までどおり大事にして、何を变えていってもよいかを、考えていくのが今後の課題かと思う。本日の委員からの意見をもとに考えていただければと思う。

意見 書誌情報の話が出ていたが、内容も含めて、出版社に書かせて、国立国会図書館に提出させればよいと思う。国には予算があるので、それを各図書館が利用できるようにすればよい。書誌情報は、共通のものでないといけないし、各図書館の司書が入力する必要はないと思う。

5 事務連絡

6 閉会